

猿 橋  
小学校

# 瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

## マスクの功罪

校長 澁谷 一 男

飯豊連峰は、谷間を彫刻刀でえぐられたように、山頂付近の所々に白い模様が描かれている。ふと目にした遠くの山々の初冠雪に、晩秋から初冬へと確かに移りゆく季節を見た。



一部の報道によると、今年のインフルエンザの罹患率は、昨年の同時期の 0.1%だという。新型コロナウイルス感染症対策で、マスク着用や手洗いの徹底などが、インフルエンザをはじめとする他の感染症の予防になっているのだろう。その意味では、マスク着用の習慣化は功を奏しているといつてよい。しかし、一方でマスクの着用によって気になっていることがある。それは、人の表情が分かりにくいということだ。

子どもたちを取り巻く環境が、その成長に大きな影響を与えることは言うまでもない。教職員も子どもたちにとっては重要な教育環境の一つだ。教職員が教育環境である以上、その指導力は言うに及ばず、服装、言動、所作など、細かな立ち居振る舞いも子どもたちの成長に影響を与えるとつてよい。とりわけ学級担任制を取っている小学校では、学級担任から子どもたちが受ける影響は大きい。同じ学年でも学級によってカラーがある、子どものノートの文字が担任の板書に似てくる、こんな経験をかつて私もしてきた。それゆえ、教師ができるだけ表情豊かに、子どもたちの話を聴き、子どもたちに語りかけることは、とても大切なことなのだ。

ここで、厄介なのがマスクである。マスクで覆われた顔は、表情が分かりづらばかりか、場合によっては、怖い、冷たい、暗いなどという印象さえ与えかねない。これは教師にとっては、かなりのハンディキャップとつてよい。そこで重要なのが、目の表情だ。「目は口ほどにものを言う」「目を三角にする」「目が泳ぐ」など、日本には目で感情を表すことわざや慣用句が多い。実際、欧米に比べて、日本人は、目から相手の感情を読み取る傾向があるのだそうだ。口元は隠れていても、しっかり目で笑っていれば、相手に「喜」「嬉」「楽」という感情は伝わるだろう。更に、声のトーンを少し上げる、身振り手振りを加えるなどの工夫を加えれば、一層効果的だろう。日々心掛きたい。

晩秋の陽射しはすっかり弱々しくなつた。貴重な晴れ間を惜しむかのように、芝生広場では子どもたちの元気な歓声が響いている。マスクを外して元気に駆け回る子どもたちの顔は、皆笑顔だ。